



# 島に残る伝統文化の 担い手の在り方について



# 長崎県五島市

- 人口：34,391名 (R2国勢調査)
- 面積：420.90km<sup>2</sup>
- 構成：10の有人島  
53の無人島
- アクセス：  
福岡・長崎からそれぞれ、  
飛行機・船が出ている

## 五島列島

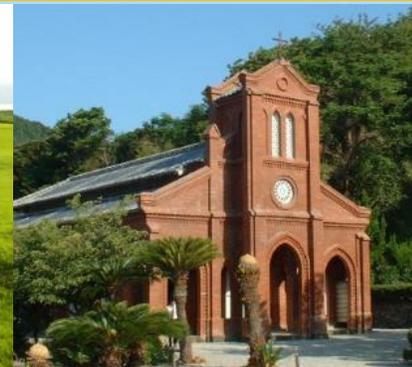
## 五島市

宇久町 (佐世保市)  
小値賀町  
新上五島町

中通島

西海

## 五島列島



# 過去2年間の東大FSで分かったこと

R5年度：伝統文化の子供たちへの継承について

R6年度：学校が廃校となった地域での伝統文化の継承について

担い手確保のため、祭りの当日だけ、地域外から参加者を募って、祭りを続けている

祭り当日の食事の準備は地域の女性が担ってきたが、負担軽減のため、弁当やオードブルを注文している

人が集まらないので祭りの準備や練習、話し合いの機会がどんどん減っている

担い手がいないので、踊り手の数を減らしている

## なぜ私たちは「祭り」を残して来たのか

- ・神輿を担いだり、舞を踊る男性たちだけでなく、食事の準備・片付けなどを担う女性たちも含め、祭りの担い手ではなかろうか。
- ・またこうした地域住民の「コミュニケーションの場」であることが「祭りの本質」ではないだろうか

# みなさんに期待すること

## テーマ① 「祭りに参加する意義とその入口を探る」

- ・かつては青年団が祭りを担い、地域の大人として認められてきた
- ・人口減少、少子化により、青年団を維持することが難しくなっている
- ・移住者が地域住民との接点を持ってない

→移住者を巻きこみ、復活した荒川地区の神楽の在り方を調査し、なぜ移住者たちが伝統文化を担えたのかを明らかにして欲しい

→対象として、地域住民だけでの維持ができなくなり、消失してしまった祭りについて調査し、なぜ維持できなくなったのかを探る

担い手の理想的なあり方、取り込み方を検討する

# みなさんに期待すること

## テーマ② 「そもそも祭りとはなにかを探る」

- ・ 他地域から当日だけ人を寄せ集め、どうにか維持している祭りの意義とは
- ・ 「装束を着て祭りを担う男衆」と「食事の準備をする女性陣」では、祭りに対してどのような意味合いの違いがあるのか

→ 住民や宮司、研究者などへの聞き取り調査を行い、住民にとって、現存する「祭り」とは何かを語り合う

→ 伝統文化を「遺跡」としてとらえ、今の姿のまま保存すべきなのか？  
状況に応じて、変化していくべきなのか？



地域にとっての祭りの意義と継承の在り方をまとめる

# 活動スケジュール（イメージ）

## 6月：オンラインでの打ち合わせ

- ・五島市の概要と市内の伝統芸能を紹介
- ・プロジェクトについて打ち合わせ



## 9月：現地活動①

- ・調査フィールドの視察
- ・伝統芸能関係者へのヒヤリング
- ・一度消えかけた神楽が、移住者を巻きこみ復活している事例を確認



## 10月：現地活動②

- ・奈留島、椀島での例大祭を視察（参加）しながら、関係者へのヒヤリング



## 2月：現地報告会

- ・五島市民に向けて、「担い手のあり方」について活動報告を行う